

第六回 堅磐事業検討委員会 議事概要

(1) 日時 平成 26 年 8 月 28 日 (木) 15:00～16:30

(2) 会場 常陸河川国道事務所 G 会議室

(3) 出席者 別紙のとおり

(4) 議事概要

①出席者の確認

- 7名の委員全員の出席により委員会規約第3条第2項の規定により委員会が成立していることを報告。
- 委員の交代（茨城県水産試験場内水面支場長：清水委員が益子委員に交代）を報告。

②第五回堅磐事業検討委員会議事概要について【資料1】

- 事務局より資料1に基づき第五回堅磐事業検討委員会議事概要について説明。
- 審議結果
 - 第五回堅磐事業検討委員会議事概要について了承された。

③堅磐地区河道掘削工事の経過について【資料2】

- 事務局より資料2に基づき堅磐地区河道掘削工事の経過について説明。
- 審議結果
 - 堅磐地区河道掘削工事の経過について了承された。

④モニタリング調査結果について【資料3】

- 事務局より資料3に基づきモニタリング調査結果について説明。
- 審議結果
 - モニタリング調査結果について了承された。
 - 委員からの主な意見、質問等とその回答は以下のとおり。
 - ◆ 質問：年々サギ類コロニーの範囲が下流側に移動している原因は何か。
 - 回答：上流側のメダケ林が少し枯れてきていること、ゴイサギの幼鳥が下流側に集まってコロニーがそちら側に誘導された可能性があることなどが要因として考えられるが、詳しい原因については不明である。
 - ◆ 質問：メダケ林は今後回復する見込みがあるのか、あるいはこのまま衰退するのか。もし衰退するとなるとサギ類コロニーも消滅する危機があると思うが、その見通しはいかがか。
 - 回答：メダケ林を対象とした調査は実施していないので、枯れてきているかどうかの実態、枯れてきているとした場合の今後の回復・衰退の可能性は不明である。必要があれば今後メダケ林の状況を確認し、来年の委員会で報告したい。
 - ◆ 質問：サギ類の糞で営巣林が枯れたという状況は見られるのか。
 - 回答：サギの糞が木を枯らすということはない。カワウで枯れることはあるがサ

ギでは枯れない。また、竹類は何年かに一度、一斉開花して一斉に枯れるが、これがいつになるかを推測するのは非常に難しい。

- ◆ 意見：サギ類のコロニーが下流に行く原因は、近年はアオサギが増えて一番良い場所を先に占有するため、遅れて来る白サギ類が下流側に追いやられるのではないかと。また、上流側にはオオタカがいるのでそれを避けて下流側に行くのではないかと。
 - 回答：オオタカはよほどでないとならぬとサギを捕食しないし、サギもオオタカをそれほど怖がらない。国土交通省の調査では幼鳥が巣立って前面に出てきている時期の調査であるため、巣自体の場所よりも下流に移動している結果に見えるのではないかと。筑波大学の調査結果からは、移動しているとは判断していない。
- ◆ 意見：平成 26 年はゴイサギが減少した結果が示されているが、筑波大学の調査では減少してはいなかった。茨城県全体でも、年による増減は大きいと、特に減少しているようには見えない。
- ◆ 意見：茨城県の鳥獣センターで保護された過去 18 年間のデータを整理すると、アマサギはこの 10 年減っている。ゴイサギは 5 年ぐらい前から減少している。魚や昆虫など餌が減少し、あまり良くない傾向ではないかと。堅磐のような大きなコロニーを維持していくことが大事である。
- ◆ 意見：アユの産卵については、茨城県水産試験場の調査でも平成 25 年のアユの産卵は遅めで 11 月上旬になったという結果であり、国土交通省の結果と同様である。
- ◆ 質問：アユの調査時期が年々遅れているように思えるが、意図があるのか。
 - 回答：結果表に「0」とあるのは調査をしたが産卵の確認が無かったことを意味しており、例年 9～11 月の間で実施しており、大きな変更はしていない。
 - 回答：9～11 月に実施していれば、調査期間としては十分である。

⑤H26 堅磐地区河道掘削工事等について【資料 4】

- 事務局より資料 4 に基づき H26 堅磐地区河道掘削工事等について説明。
- 審議結果
 - H26 堅磐地区河道掘削工事等について了承された。
 - 委員からの主な意見、質問等とその回答は以下のとおり。
 - ◆ 質問：平成 26 年度の掘削工事の範囲は、平成 25 年度までに比べると上流側は幅が細くなっているのはなぜか。また、下流側は常磐道高架付近がまだ工事されないのはなぜか。
 - 回答：幅が細くなっているのは、掘削部分に一部民有地が残っており、土地の買収がまだされていないためである。買収が終わればそこも掘削する予定である。また、常磐道高架付近の掘削には NEXCO との協議が必要であり、協議後に掘削する予定である。
 - ◆ 意見：平成 26 年度工程表には 8～9 月にかけて伐採・除根とあるが、平成 25 年度工程表では、10～11 月に予定されていた伐採・除根が実際は 12～1 月に行われている。バックホウやダンプは、それほど鳥類に影響はないと思うが、伐採時のチェーンソーの騒音は単発的に出るし、高周波で鳥類に影響があると思われるので、伐採・除

根作業は遅れないようになるべく早い時期に実施して欲しい。

➤ 回答：現在、現場に確認しているところでは、今年の伐採はそれほど遅れることはない予定である。

◆ 質問：掘削した土はどこに持っていくのか。

➤ 回答：大洗の方に持っていき、養浜に利用する。ほか、事務所内の工事で土が必要な場合があれば、そちらにも利用する。

◆ 質問：工事完成後、出水時に本流と分水路によって孤立した中洲（サギコロニー）は、洗掘される可能性はないのか。蛇籠やコンクリートブロックを設置した方が良いのではないのか。

➤ 意見：地球温暖化の影響もあってか最近は想定外の降水量が多発しているので、今まで使っていた計算ではなく、そういった想定で再度計算してみてもどうか。

➤ 回答：100年に1度の確率の出水まで想定している。ただし、計算上の話なので、工事完成後は中洲の状況をモニタリングしながら慎重に対応していきたい。

➤ 意見：今計画している最大流量が流れた場合、このサギコロニーは水没してしまうのではないのか。100年に1度の洪水が来た場合などは、一時的にはサギコロニーも完全に守れるものではないことは認識を共有しておいた方が良い。

◆ 意見：工事完了後、どのように保全するのかを考えておいた方が良い。今後の研究課題としてはどうか。

◆ 質問：①工程表で構造物撤去が11月から始まることになっているが、これは陸上工事になるのか、水の中での工事になるのか。②国土交通省で今年もアユの産卵調査を予定されているが、できるだけ面的な展開で調査をお願いしたい。③補修工事の工程表をみると、根固工事の時期がサケ遡上の終盤と重なるので、漁協と十分調整をお願いしたい。

➤ 回答：①水面に触れない形での工事である。②アユの調査は例年同様に面的に行う予定である。詳細は調査業者と調整して実施する。③久慈川漁協に詳細な工事内容・時期の説明を行い、時期としてはサケ遡上の時期にあたるが、全体としては大きな影響はないだろうとして了承を頂いている。

⑥今後のモニタリング計画について【資料5】

- 事務局より資料5に基づき今後のモニタリング計画について説明。
- 審議結果
 - 今後のモニタリング計画について了承された。

⑦その他

- 次回の委員会は、来年度も今年度と同様に工事前に予定しているが、詳細な日程については委員の皆様のご都合に合わせて調整させて頂く。

以上

第六回 堅磐事業検討委員会

出欠表

日時 平成 26 年 8 月 28 日 (木)
15:00~16:30
会場 常陸河川国道事務所 2 階会議室 G

(1) 委員

	氏名	所属	出欠
委員	池野 進	日本野鳥の会茨城県 会長	○
	小菅 次男	茨城生物の会 会長	○
	益子 知樹	茨城県水産試験場内水面支場 支場長	○
	○武若 聡	筑波大学システム情報工学研究科 教授	○
	多田 恒雄	久慈川水系環境保全協議会 委員	○
	徳永 幸彦	筑波大学生命環境系生物科学専攻 准教授	○
	山口 萬壽美	河川水辺の国勢調査 (鳥類) アドバイザー	○

敬称略 五十音順、○：委員長

(2) オブザーバー、事務局

	氏名	所属	出欠
オブザーバー	高杉 則行	久慈川漁業協同組合 代表理事組合長	欠
	柏 正裕	那珂市 市民生活部 環境保全課 環境グループ 課長補佐	○
	我妻 和之	日立市 都市建設部 都市整備課長	○
	小林 則之	常陸太田市 建設部 建設課長	○
事務局	辰野 剛志	常陸河川国道事務所 副所長	○
	鈴木 雅史	常陸河川国道事務所 工務第一課長	○
	岩井 潤一	常陸河川国道事務所 久慈川下流出張所長	○
	小池 亨	常陸河川国道事務所 調査第一課 専門官	○

敬称略